

男女共同参画研修会資料
リタイア男性が見た男女共同参画

1.女性の社会進出

- (1).企業⇒女性の感性を活かした人材活用
- (2)行政⇒女性議員、女性管理職の登用
- (3)地域⇒社会福祉協議会や自治会などでの女性指導者
- (4)家庭⇒イクメン、イクジイなどの新語が生まれた

2.男女共同参画との出会い

- (1)「あすてらす情報 Market」の編集委員として
(島根県男女共同参画センターあすてらす)
- (2)「言行ふいっち族」の一員として男目線の男女共同参画イベントに参加
- (3) 出雲市男女共同参画センター「くすのきプラザ」の講師
- (4) 「日本女性会議 2011 松江」のシンポジウムに参加
- (5) 財団法人しまね女性センター理事、元島根県男女共同参画審議会委員として

3.リタイア生活は未知との遭遇である

退社して半月ほどは、出勤せずに家にいられることが嬉しかった。定刻に眼が覚めても寢床からはね起きる必要はない。分刻みに洗面、食事、トイレ、身支度とすませてから家を飛び出すこともない。眼が覚めても寢床の中でゆっくりと寝起きの余韻を楽しみ、新聞を読みながら時間をかけて朝食を摂る。

(中略)

それも半月もすると時間をもてあましてきた。これまでは会社に行けば時間が自動的に流れた。だが、自由のみになってみると時間は自分で押して行かない限り、凍結したように動かない。

(中略)

情熱に裏打ちされた自由こそ、本物の自由ではないのか。自由とは自分が本当になしたいことをなすためにある。特になしたいことがないままに得た自由はもてあましてしまうだけである。

森村誠一著「レッドライト」抜粋

(1)家庭内での居場所づくり

- ・脱「濡れ落ち葉」「粗大ごみ」「わしも族」
- ・主夫業開眼（妻への恩返し?）

(2)地域に打って出る（ボランティア活動）

- ・塩冶地区社会福祉協議会
- ・塩冶百寿会事務局
- ・社会福祉法人喜和会

(3)仲間づくり（縦社会から横社会への広がり求めて）

- ・くすのき会⇒出雲市男女共同参画センターのセミナーの受講生たち
- ・料理やろう会⇒男性の料理グループ、「全国男女共同参画宣言都市 in いずも」に「おじいちゃんの台所」で参加
- ・どけな会⇒出雲市男女共同参画センターのセミナーの受講生たち
- ・おんぼらと会⇒出雲市男女共同参画センターのセミナーの受講生たち
- ・いずも食プロジェクト⇒毎年食のイベントを開催

(4)健康づくり

- ・おたっしゃ体操いきいき会の発足⇒いつまでも健常であるために
- ・お達者手帳の活用

(5)趣味（ひとり遊び）

- ・木彫
- ・パソコン関係の駆け込み寺

福間正久
出雲市塩冶町 1408-30
fmasa@icv.ne.jp